

令和5年度 家庭教育充実促進事業

8月9日(水)開催

子どもと保護者でいっしょに学ぶ 読書感想文講座

【第1部:子どもと保護者一緒のプログラム】(約60分)

親子一緒に図書館で準備した本を手に取り、読書感想文を書く本の選び方について図書館司書に相談をしたあと、親子それぞれ、図書館で選んだ本や自分で持ってきた本を読んでいた。

家で本を読んできた親子は第2部からの参加も可能としていましたが、10組の親子が第1部から参加し、ともに本選び、読書を楽しむ時間となりました。1時間が過ぎたところで、子どもプログラムと保護者プログラムに分かれるために、各自、教室へ移動しました。



【第2部 子どもプログラム】(約90分)

講師：松田 美紀さん(話す作文教室 はなさく代表・NPO 法人マナビエル理事)

講師補佐：中田 こころさん (NPO 法人マナビエル)



講師がオリジナルワークシートを使いながら「読書感想文」の書き方をお話していただき、子どもたちは書くことを通じ、人にどのように自分の思っていることを伝えるのかということを教えてもらいました。

どこの場面でどう感じたのか、どう伝えたいのか、質問を細かく重ねて、自分の気持ちに気づき、絵で表すことも含め、表現できるように励まし、感想文を書くということは、何か正解を出すということではなく、自分らしさを知り、経験や価値観をもとに自分の等身大の考え、気持ちを表現することだということを実際に体験してもらいました。

この1時間半で子どもたちは伝える喜びと楽しさを経験し、はじめはやや緊張していた子どもたちも「自分が思ったことは何を書いてもOK」という講師の言葉に励まされ、楽しんで、読書感想文を書いていました。



【第2部 保護者プログラム】(約90分)

講師：志田 千帆さん(NPO 法人マナビエル代表理事)

講師補佐：福地 朋子さん(wmoon 合同会社代表・NPO 法人マナビエル理事)



「『想いを伝える感想文』のために保護者としてできること」をテーマとし、表現に挑戦した子どもたちへの対応についてお話いただきました。複数の保護者が一つのグループになり、意見を出し合う対話式で進行されました。またSTEAM 教育(注釈①)などの最新の教育事情を含めたお話もしていただき、今の時代に必要とされる「発信力」にもつながる、文章で自己の思いを表現する力を磨くことの大切さも学べた有意義なプログラム内容でした。

講座終盤では、別室においてワークシートを書き終えた子どもたちが保護者と合流し、親子で対話する時間が設けられ、親子共に、講座を通じて学んだことの効果を得ることが出来たと窺える時間でした。



注釈①：S(science) 科学、T(technology) 技術、E(engineering) 工学、
A(arts) 芸術、M(mathematics) 数学の頭文字をとった造語。



こどもアンケートより

- ・楽しくべんきょうできた。
- ・分からない所をていねいに教えてくれたり、アドバイスしてくれたりくれた。
- ・すごくわかりやすかったです。帰ったら読書感想文を書きます。
- ・今日は教えていただきありがとうございました。
- ・分からない所があったらやさしく教えてくださりありがとうございました。
- ・書いているときにこまっていたら助けてくれたり、例をあげてくれたりしてくれてありがとうございました。
- ・せつめいがわかりやすくてわからないことはたくさん教えてくれてかつこの書き方もおしえてくれて楽しくて作文を書くのが楽しくなりました。

保護者アンケートより

- ・子どもの作文嫌いは母親の影響だなと思われました。すごくわかりやすく話をしてくださったので自分のものにしていきたいと思いました。
- ・親の対応や子どもへの接し方、子どもの気持ちなどいろいろ学ぶことができた。
- ・親からの声かけ、子の視点がよく分かりました。今後も継続していきたいです。
- ・子どもへの声かけの仕方がとても勉強になりました。これからも第一声に気を付けたいと思います。
- ・順序たてて話してくださったので分かりやすかったです。
- ・とても良かったです。子どもはまだまだ作文に対してネガティブのようですが、私も気を付けてほめる事をまず!!の行動をしたいと思います。
- ・とても分かりやすい講座で耳の痛い内容でもあった。当てはまる事が多かったのです。
- ・子どもに対して否定はしてはいけない!っていうことは頭ではわかっているもつい否定しがちになっていましたが、改めて『ほめる』大事さを理解できて良かったです。
- ・芽をつぶしまくった4年間だったので、これからは成功体験を増やせたらと思います。

